



## 2019年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年2月14日

上場会社名 株式会社アーレスティ 上場取引所 東  
 コード番号 5852 URL https://www.ahresty.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 新  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 高橋 新一 TEL 03-6369-8660  
 四半期報告書提出予定日 2019年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第3四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	110,601	3.4	1,932	△32.6	1,981	△26.4	△1,285	—
2018年3月期第3四半期	106,989	6.5	2,868	△36.9	2,693	△32.2	2,360	△19.5

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 △3,187百万円 (—%) 2018年3月期第3四半期 3,737百万円 (—%)

(参考) EBITDA 2019年3月期第3四半期 14,284百万円 (2.1%) 2018年3月期第3四半期 13,986百万円 (△5.5%)

(※) EBITDA=営業利益+減価償却費

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	△49.63	—
2018年3月期第3四半期	91.26	90.34

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第3四半期	132,945	61,680	46.3
2018年3月期	137,751	65,439	47.4

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 61,493百万円 2018年3月期 65,251百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	12.00	—	14.00	26.00
2019年3月期	—	10.00	—	—	—
2019年3月期 (予想)	—	—	—	12.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	149,300	2.8	3,100	△34.3	3,150	△29.0	200	△94.2	7.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期3Q	26,076,717株	2018年3月期	26,027,720株
② 期末自己株式数	2019年3月期3Q	162,257株	2018年3月期	160,364株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期3Q	25,896,322株	2018年3月期3Q	25,861,367株

(注) 当社は、2018年6月20日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として、2018年7月19日付で新株式を48,997株発行しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(日付の表示方法の変更)

「2019年3月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
(5) セグメント情報 .....	8
(6) 重要な後発事象 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、個人消費の持ち直しや設備投資の増加の動きがみられ、企業収益や雇用情勢が改善するなど、緩やかな回復基調が続いております。また海外においては、米国の景気は着実に回復が続いており、アジア地域においては中国の景気は鈍化傾向にあるものの、インドでは景気は概ね堅調に推移しました。一方で、景気の先行きについては、燃料価格の上昇、米国の通商問題、中国の景気減速等による世界経済への懸念もあり、不透明感が強まっております。

このような環境の中で、当第3四半期連結累計期間の売上高はアジアセグメントを中心に受注量の増加等により増収となった一方で、利益面については、燃料価格の上昇等によるコストアップ要因に加え、減価償却費の増加等も収益圧迫要因となりました。また、米国工場においては、改善プロジェクトを昨年初より継続しており生産性の改善の兆しはありますが、収益面の改善が遅れていることから減損損失が発生した影響等により、減益となりました。

当社グループでは今期最終年度となる1618中期経営計画に基づく施策展開を着実に進めるとともに、生産性や収益性の改善に努め、来期からスタートする1921中期経営計画に繋げてまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高110,601百万円(前年同四半期比3.4%増)、営業利益1,932百万円(前年同四半期比32.6%減)、経常利益1,981百万円(前年同四半期比26.4%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失1,285百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益2,360百万円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

## ① ダイカスト事業 日本

日本自動車市場では、国内販売、輸出向け生産共に昨年比で概ね横ばいでの推移となっております。当社受注量は、当四半期の増加により累計では前年同四半期とほぼ同量となりましたが、アルミ地金市況上昇により売上高は51,689百万円(前年同四半期比3.2%増)となりました。収益面においては、燃料費の上昇や減価償却費の増加等の影響を受けセグメント利益は574百万円(前年同四半期比45.2%減)となりましたが、10月から12月の足元の収益においては販売増の影響を受けたことにより直前四半期に比べ改善しました。

## ② ダイカスト事業 北米

北米自動車市場は、主要顧客である自動車メーカーの販売がピークアウトを迎える中、乗用車がシェアを縮小する一方で、小型トラックやSUVのシェア拡大が続いています。当社米国工場においても、小型トラックやSUVに搭載される部品の受注は好調であり、一昨年の一部部品の生産終了の影響を補いほぼ前年並みの受注量となりました。一方のメキシコ工場では新規部品の量産本格化による受注拡大があったものの、当四半期は北米マーケットの乗用車向け部品の受注減少の影響が見られました。この結果、北米セグメント全体での受注量は減少となったものの売上高は地金市況上昇もあり、30,170百万円(前年同四半期は30,158百万円)となりました。収益面においては、米国工場での改善プロジェクトの収益貢献の遅れ及び減価償却費の増加等の影響を受けセグメント損失283百万円(前年同四半期はセグメント利益151百万円)となりました。

## ③ ダイカスト事業 アジア

中国では、主要顧客である日系自動車メーカーにおける販売が、SUVを中心に好調に推移しており、当社においても新規部品を含む関連部品の受注が拡大しました。また、インドでも、自動車市場の拡大が続いており、当社の受注量も大きく増加しております。こうした受注増の影響に加え、両国でのアルミ地金市況上昇を受け、アジアでの売上高は22,899百万円(前年同四半期比6.4%増)となりました。収益面においては、増収による増益効果等によりセグメント利益1,382百万円(前年同四半期比7.7%増)となりました。

## ④ アルミニウム事業

アルミニウム事業においては、販売量は前年同四半期に比べ減少しましたが、上期は前年度と比べて単価高だった為、売上高は3,458百万円(前年同四半期比0.8%増)となりました。収益面においては、加工費の原価低減活動を推進しておりますが、原価構成の主となる原材料が、上期にアルミ相場高の影響を受け原価高となり、セグメント利益は72百万円(前年同四半期比58.4%減)となりました。

## ⑤ 完成品事業

完成品事業においては、主要販売先である半導体関連企業のクリーンルーム物件や通信会社のデータセンター向け物件等の受注が増加し、売上高は2,383百万円(前年同四半期比32.9%増)となりました。収益面においては、価格競争の激化等によりセグメント利益は232百万円(前年同四半期比9.0%減)となりましたが、10月から12月の足元の収益においては受注増の影響により直前四半期に比べ改善しました。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第3四半期連結会計期間末の総資産は132,945百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,806百万円の減少となりました。流動資産は43,624百万円で、前連結会計年度末に比べ899百万円の増加となり、その主な要因は、売上債権が1,573百万円減少した一方、現金及び預金が1,651百万円、たな卸資産が725百万円増加したことによるものです。固定資産は89,320百万円で、前連結会計年度末に比べ5,706百万円の減少となり、主な要因は有形固定資産の減少5,075百万円によるものです。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末の負債は71,264百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,048百万円の減少となりました。流動負債は49,460百万円で、前連結会計年度末に比べ484百万円の増加となり、その主な要因は、仕入債務が197百万円、未払法人税等が826百万円、賞与引当金が831百万円減少した一方、短期借入金が2,017百万円、1年内返済予定の長期借入金が178百万円増加したことによるものです。固定負債は21,803百万円で、前連結会計年度末に比べ1,532百万円の減少となり、その主な要因は、長期借入金が916百万円減少したことによるものです。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末の純資産は61,680百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,758百万円の減少となりました。その主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失等により利益剰余金が1,906百万円、その他有価証券評価差額金が953百万円、為替換算調整勘定が983百万円減少したことによるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末47.4%から46.3%となりました。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

2018年10月19日に公表した業績予想を修正いたしました。詳細については、2019年2月14日公表の「特別損失、特別利益の発生及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,630	4,282
受取手形及び売掛金	24,783	22,196
電子記録債権	2,902	3,914
商品及び製品	3,232	3,662
仕掛品	4,890	5,142
原材料及び貯蔵品	3,208	3,251
その他	1,090	1,175
貸倒引当金	△13	△1
流動資産合計	42,724	43,624
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	14,805	13,760
機械装置及び運搬具 (純額)	43,778	40,931
土地	5,425	5,436
建設仮勘定	10,556	9,137
その他 (純額)	8,317	8,539
有形固定資産合計	82,882	77,807
無形固定資産	1,786	2,096
投資その他の資産		
投資有価証券	8,266	6,912
その他	2,115	2,529
貸倒引当金	△24	△24
投資その他の資産合計	10,357	9,417
固定資産合計	95,026	89,320
資産合計	137,751	132,945
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,413	12,712
電子記録債務	7,882	8,385
短期借入金	5,307	7,325
1年内返済予定の長期借入金	10,109	10,287
未払法人税等	1,032	205
賞与引当金	2,157	1,326
役員賞与引当金	15	—
製品保証引当金	87	81
その他	8,971	9,136
流動負債合計	48,976	49,460
固定負債		
長期借入金	16,136	15,220
長期未払金	589	585
退職給付に係る負債	2,867	2,875
その他	3,743	3,122
固定負債合計	23,336	21,803
負債合計	72,312	71,264

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,939	6,964
資本剰余金	10,180	10,206
利益剰余金	40,272	38,365
自己株式	△238	△239
株主資本合計	57,153	55,296
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,335	3,382
為替換算調整勘定	4,168	3,184
退職給付に係る調整累計額	△406	△370
その他の包括利益累計額合計	8,098	6,196
新株予約権	187	187
純資産合計	65,439	61,680
負債純資産合計	137,751	132,945

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高	106,989	110,601
売上原価	95,282	99,986
売上総利益	11,707	10,615
販売費及び一般管理費	8,838	8,682
営業利益	2,868	1,932
営業外収益		
受取利息	20	73
受取配当金	159	183
為替差益	14	22
スクラップ売却益	83	109
その他	97	111
営業外収益合計	374	499
営業外費用		
支払利息	492	413
その他	57	38
営業外費用合計	549	451
経常利益	2,693	1,981
特別利益		
固定資産売却益	10	59
投資有価証券売却益	—	301
補助金収入	9	65
保険差益	51	160
特別利益合計	72	586
特別損失		
固定資産除売却損	90	260
減損損失	—	3,015
特別退職金	55	—
製品保証費用	17	—
借入金繰上返済費用	—	153
特別損失合計	164	3,430
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	2,601	△862
法人税、住民税及び事業税	1,270	874
法人税等調整額	△1,028	△452
法人税等合計	241	422
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,360	△1,285
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	2,360	△1,285

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	2,360	△1,285
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,153	△953
為替換算調整勘定	181	△983
退職給付に係る調整額	42	35
その他の包括利益合計	1,377	△1,901
四半期包括利益	3,737	△3,187
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,737	△3,187
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					合計
	ダイカスト事業			アルミニウム事業	完成品事業	
	日本	北米	アジア			
売上高						
外部顧客への売上高	50,077	30,158	21,527	3,432	1,792	106,989
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,249	1	1,337	3,522	11	8,122
計	53,326	30,160	22,865	6,954	1,804	115,112
セグメント利益	1,049	151	1,283	173	255	2,912

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,912
セグメント間取引消去	△44
四半期連結損益計算書の営業利益	2,868

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					合計
	ダイカスト事業			アルミニウム事業	完成品事業	
	日本	北米	アジア			
売上高						
外部顧客への売上高	51,689	30,170	22,899	3,458	2,383	110,601
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,895	8	1,675	3,804	5	8,389
計	54,585	30,179	24,575	7,263	2,388	118,991
セグメント利益又は損失 (△)	574	△283	1,382	72	232	1,978

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,978
セグメント間取引消去	△45
四半期連結損益計算書の営業利益	1,932

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「ダイカスト事業 北米」のアーレスティウイilmingtonCORP. は、収益面での改善が遅れていることから米国会計基準に基づく減損テストを実施しました。その結果、保有する事業用資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失として計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において3,015百万円です。

(6) 重要な後発事象

(投資有価証券の売却)

当社は、保有資産の効率化及び財務体質の強化を図るため、保有する投資有価証券の一部(上場株式4銘柄)を2019年2月12日～2月13日に売却いたしました。これに伴い、2019年3月期第4四半期連結会計期間に投資有価証券売却益1,040百万円を特別利益に計上いたします。